

# 2024年奈良県経済の概況と 県内業界団体に聞く2025年の見通し

## 第 I 部

### 2024年奈良県経済の概況

2024年7～9月期の日本経済の実質GDP成長率は前期比+0.2%（年率換算+0.9%）と2四半期連続のプラス成長となった。

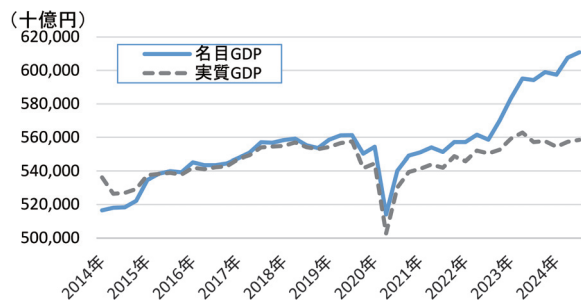
物価高という消費者マインドを押し下げる要因はあるが、足元で実質賃金が下げ止まりつつあることや備蓄需要の高まりなども影響し、個人消費は増加した。また、企業も好業績や人手不足を背景とした設備投資意欲は強く、設備投資による景気の下支え効果も期待されるなど、2024年の実質GDP成長率はプラス成長を見込む（2024年10～12月期は未公表）。

2024年の奈良県経済は、インバウンド需要が底堅く推移したことや最低賃金の上昇等に伴う所得の増加という前向きな材料はあるものの、物価上昇による消費者マインドの停滞は続いており、景気回復は緩やかなものとなっている。

先行きについては、引き続き緩やかな成長が見込まれるが、米国の次期大統領による通商政策によっては、米中の貿易摩擦が再燃する懸念もあるなど、不確定要素が多く、海外経済の減速に伴う国内経済の下振れリスクには引き続き注視する必要がある。

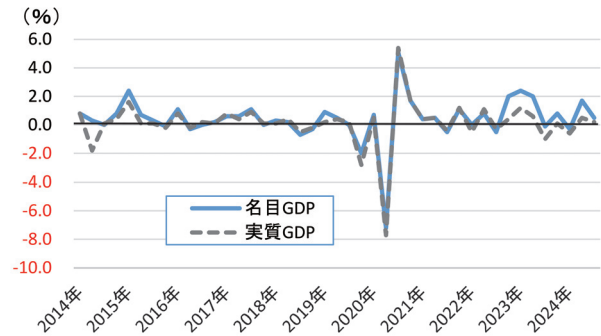
【注】本稿は2024年12月20日時点で公開されているデータに基づき記述している。

### 日本の名目・実質GDP（実績値、季節調整値）の推移



資料出所：内閣府 経済社会総合研究所「国民経済計算（GDP統計）」より当研究所作成

### 日本の名目・実質GDP（前期比、季節調整値）の推移



資料出所：内閣府 経済社会総合研究所「国民経済計算（GDP統計）」より当研究所作成

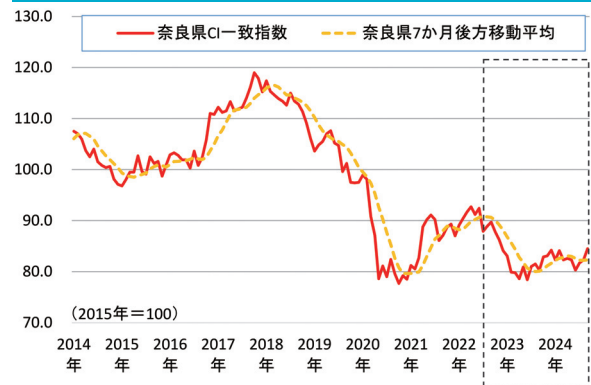
## 1 景気全般

### 1. 景気動向指数

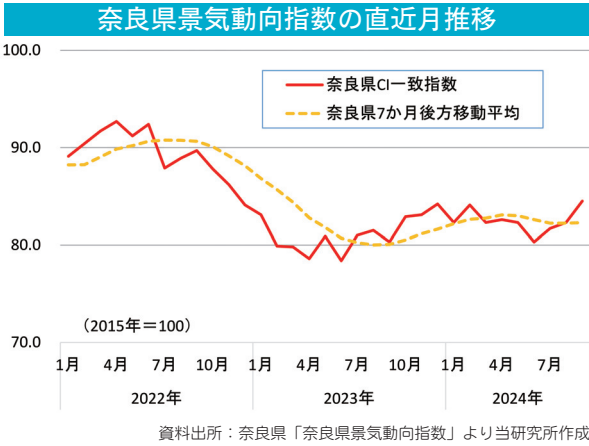
2024年の奈良県景気動向指数（2015年＝100）をみると、景気と一致して動くCI一致指数は、1月（82.3）から6月（80.3）まで上昇と低下を繰り返していたが、7月（81.7）から9月（84.5）は上昇が続いており、持ち直しの動きを見せている。

7か月後方移動平均の動きを踏まえると、2024年はほぼ横ばいで推移しているが、足元では物価高に賃金の伸びが追い付き始めるなど、明るい材料も浮かび上がっている。今後、景気回復が期待できるかどうかは、物価動向とともに春闘での賃上げの動きに大きく左右されるものと思われる。

### 奈良県景気動向指数の長期推移



資料出所：奈良県「奈良県景気動向指数」より当研究所作成



## 2. 地元企業動向調査

### (1) 景況感DI

当研究所の調査によれば、2024年の県内企業の景況感DI（前期比、全産業）は、円安による輸入物価の高騰や人手不足の深刻化などの要因に加えて、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響もあり、1～3月期は▲17.0へと悪化した。4～6月期は、春のレジャーシーズンにおけるサービス需要の高まりを受け、▲11.3へと改善。7～9月期は、4～6月期の大幅な改善の反動等によって、▲12.9へと小幅悪化した。

対前年比でも、1～3月期は▲5.0ポイント、4

～6月期は▲8.4ポイント、7～9月期は+3.8ポイントと一進一退を繰り返している。

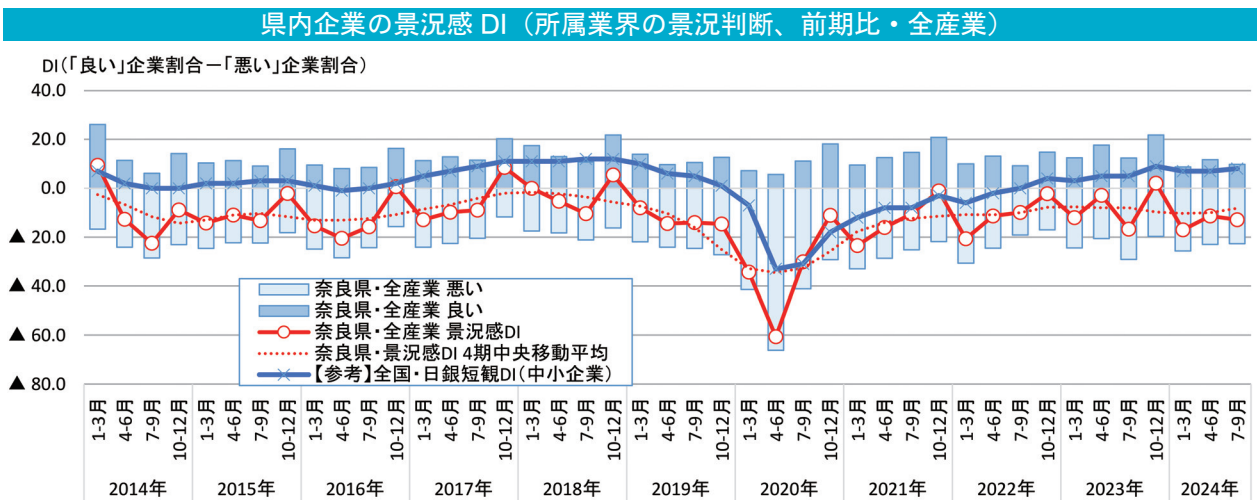
今後、物価上昇による買い控え等が一部で予想されるものの、所得環境の改善を背景とした個人消費の回復は底堅く、インバウンド需要や好調な企業収益に支えられ、緩やかな改善が続く見通しとなっている。

なお、県内企業の景況感DIの4期中央移動平均は、「全国企業短期経済観測調査（日銀短観）」の全国中小企業DIの動きとほぼ同様の動きを見せているが、水準としては、全国よりもやや低い位置で推移していることが読み取れる。

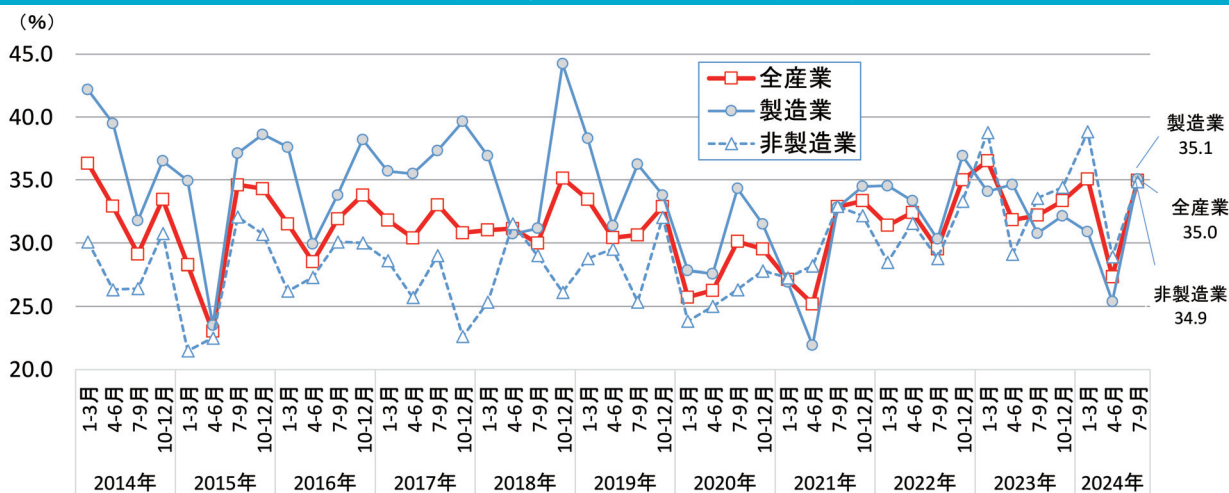
### (2) 設備投資

同じく県内企業の設備投資の実施割合は、2024年（1～9月）の四半期ごとで、35.1%→27.3%→35.0%（全産業）となった。

産業別に見た場合、直近の7～9月期は、5四半期ぶりに製造業の設備投資が非製造業を上回る結果となった。少子高齢化に起因する労働力人口減少に伴う人手不足を背景として、機械化・自動化を通じて生産性向上を狙った設備投資が当面は続くものと思われる。



県内企業の設備投資実績（実施企業の割合）



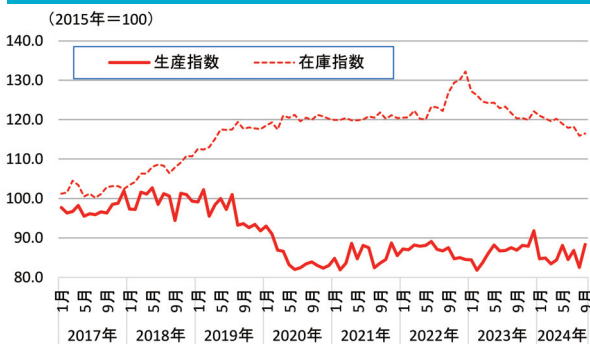
資料出所：当研究所「地元企業動向調査」を再編加工

## 2 生産

2024年（1～9月）の奈良県鉱工業指数の動きについては、生産指数は1月の84.7（季節調整済指数、以下同じ）から9月の88.3にかけて一進一退を繰り返した。2020年頃から低調に推移し、概ね横ばいという状態が続いている。

一方、在庫指数は2022年12月の132.2をピークとし、2024年9月には116.5へと低下しており、部材の供給不足は緩和されつつあることがうかがえる。

鉱工業指数（季節調整済指数）の推移

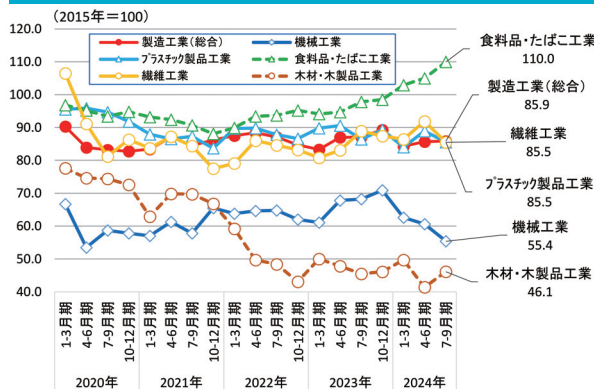


資料出所：奈良県「奈良県鉱工業指数」より当研究所作成

県内主要産業別に23年7～9月期から24年7～9月期への変化幅を見ると、製造工業（総合）は1.2ポイント低下。食料品・たばこ工業（+12.2ポイント）などで上昇、機械工業（▲12.8ポイント）、繊維工業（▲3.4ポイント）などで低下した。

20年7～9月期から24年7～9月期への中長期的な変化幅では、食料品・たばこ工業（+16.6ポイント）の増加、木材・木製品工業（▲28.3ポイント）の低下が目立った。

県内主要産業別の鉱工業指数（季節調整済指数）の推移



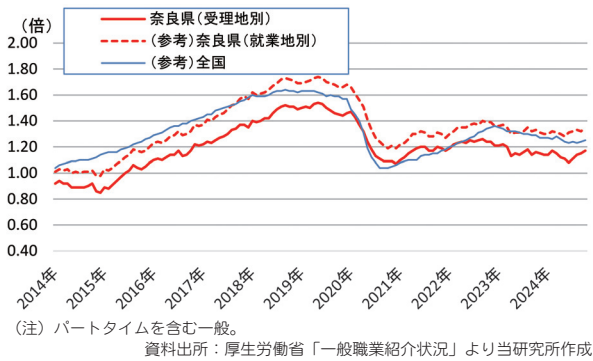
資料出所：奈良県「奈良県鉱工業指数」より当研究所作成

### 3 雇用

2024年（1～10月）の奈良県有効求人倍率（季節調整値、パートタイムを含む一般）の動きは、1月の1.14倍から小幅な増減を繰り返しながら10月には1.17倍へと、概ね横ばいで推移した。

次に、職種別に2024年10月の正社員職業別有効求人倍率をみると、建設・採掘（5.02倍）が突出して高く、次いで輸送・機械運転（3.69倍）、サービス（2.44倍）と続く。1年前と比較すると、輸送・機械運転は0.52ポイント上昇し、保安の職業は0.54ポイント、建設・採掘は0.34ポイント減少した。

有効求人倍率（季節調整値）の推移



奈良県の職種別有効求人倍率（正社員・原数値）

| 職業           | 職業別有効求人倍率（正社員） |          |          |
|--------------|----------------|----------|----------|
|              | 2024年10月       | 2023年10月 | 2022年10月 |
| 職業計（正社員）     | 0.99           | 0.95     | 0.98     |
| 建設・採掘の職業     | 5.02           | 5.36     | 4.38     |
| 輸送・機械運転の職業   | 3.69           | 3.17     | 2.77     |
| サービスの職業      | 2.44           | 2.43     | 2.42     |
| 保安の職業        | 1.81           | 2.35     | 1.76     |
| 専門的・技術的職業    | 1.71           | 1.60     | 1.66     |
| 生産工程の職業      | 1.61           | 1.68     | 1.83     |
| 販売の職業        | 1.28           | 1.28     | 1.06     |
| 農林漁業の職業      | 1.06           | 0.85     | 1.00     |
| 管理的職業        | 0.91           | 0.74     | 1.39     |
| 運搬・清掃・包装等の職業 | 0.52           | 0.42     | 0.56     |
| 事務的職業        | 0.36           | 0.33     | 0.32     |

(注) 2024年10月の有効求人倍率降順に職業を並べている。  
資料出所：奈良労働局「一般職業紹介状況」より当研究所作成

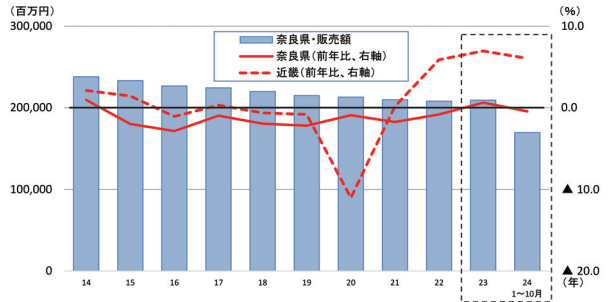
### 4 個人消費

#### 1. 百貨店・スーパー販売額

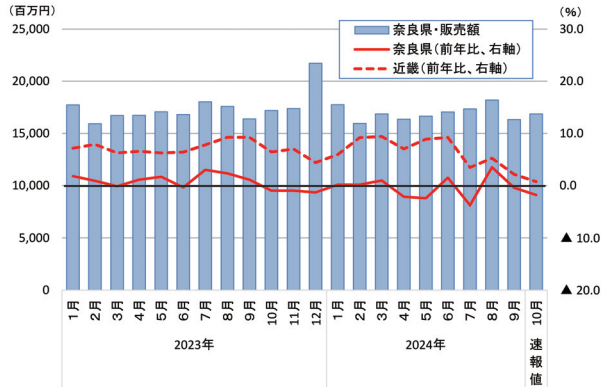
2024年（1～10月、10月は速報値）の奈良県の百貨店・スーパー販売額（全店ベース）は1,693億円で、前年比▲0.5%と低下し、近畿全体（福井県を含む2府5県）では同+6.0%と上昇した。

近畿全体では、残暑が長引いたことで衣料品は不調だったものの、インバウンド需要により、ラグジュアリーブランドを中心とする高額品や化粧品等が好調だったことなどから、前年を上回る動きとなった。奈良県は、大阪や京都と比べて百貨店のシェアが低いため、インバウンド需要の効果は限定的であるが、実質賃金の下げ止まり等の要因から、個人消費は緩やかに回復し、引き続き堅調な推移を見込む。

百貨店・スーパー販売額の年推移（全店ベース）



百貨店・スーパー販売額の月推移（全店ベース）



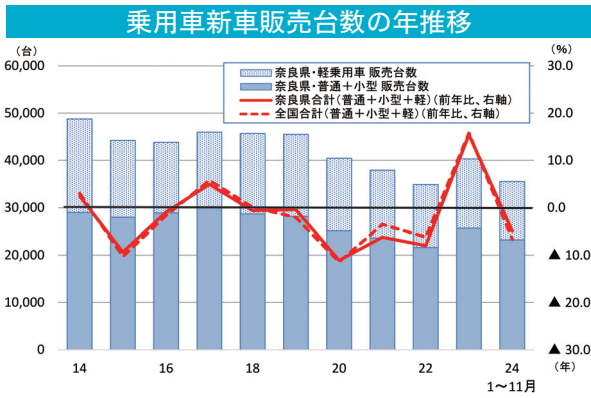
## 2. 乗用車新車販売台数

2024年（1～11月）の奈良県の乗用車新車販売台数（軽含む）は前年比▲4.9%の35,505台と、全国（同▲6.7%）と同様に下落した。

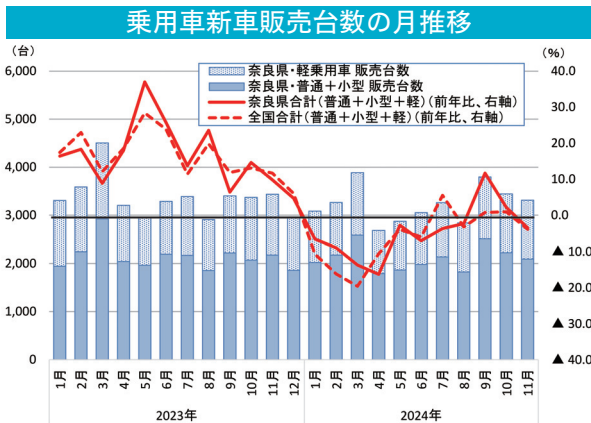
車種別に見ると、普通乗用車＋小型乗用車は23,218台（同▲2.5%）、軽乗用車は12,287台（同▲9.2%）となった。

2024年は、業界内で発生した認証関連の不正問題に伴う国内生産停止の影響もあり、全国的に前年を下回る結果となった。

一方、停止していた生産や出荷は7月から順次再開しており、県内では車が生活に欠かせないことから、需要は底堅く推移する見通し。



資料出所：日本自動車販売協会連合会、奈良運輸支局、奈良軽自動車協会提供資料より当研究所作成

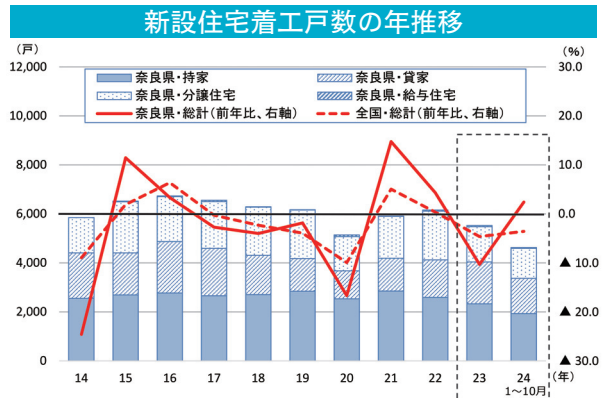


資料出所：日本自動車販売協会連合会、奈良運輸支局、奈良軽自動車協会提供資料より当研究所作成

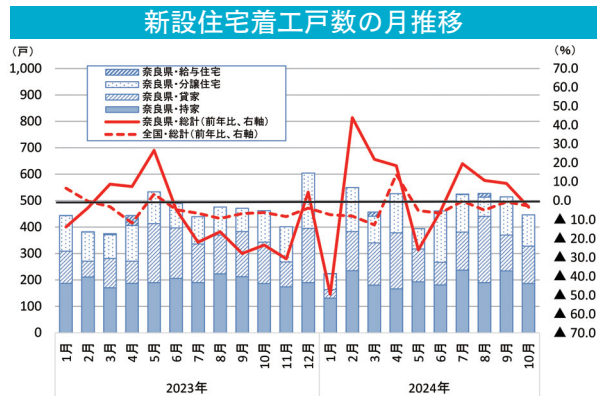
## 5 住宅投資

2024年（1～10月）の奈良県の新設住宅着工戸数は4,624戸で、前年比+2.4%（全国▲3.6%）と、前年を上回るペースで推移している。ただし、資源高や円安、人件費の増加によって建設コストが上昇しているほか、住宅ローンの金利も上昇し始めており、住宅需要回復の動きは鈍いと思われる。また、当面の間、需要を押し下げる要因も解消される見込みは立っておらず、今後も厳しい状況が続く見通し。

中長期的な目線においても、人口減少や建築現場での人手不足に歯止めがかからず、引き続き苦戦が予想される。



資料出所：国土交通省「住宅着工統計」より当研究所作成

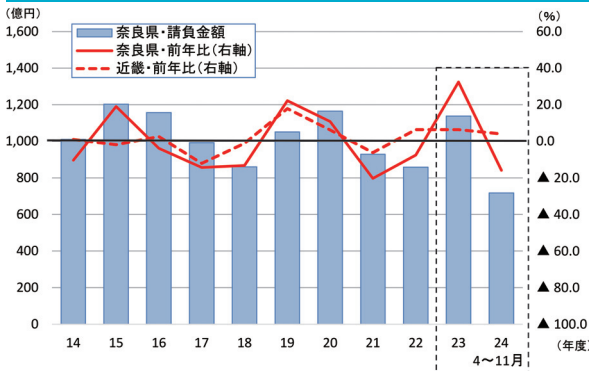


資料出所：国土交通省「住宅着工統計」より当研究所作成

## 6 公共投資

奈良県における2024年度（4～11月）の公共工事請負金額は717億円で、前年比▲15.9%と前年を下回るペースで推移した。昨年、知事選挙で当選した山下知事が掲げていた大型箱物事業などの見直しが着実に行われた結果が数値として表れたという声が聞かれた。

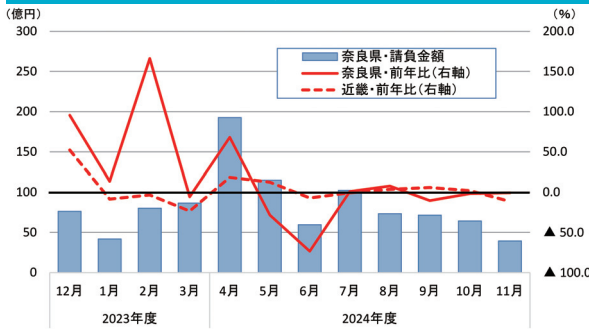
公共工事請負金額の年推移



(注) 工事場所別の保証実績。北海道建設業保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱の保証実績の合算。

資料出所：西日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」より当研究所作成

公共工事請負金額の月推移



資料出所：東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」より当研究所作成

## 7 物価

2024年の奈良市の消費者物価指数（総合）は、10月が110.5と前年同月比で38か月連続上昇している。品目別の動きを見ると、「肉類」（前年同月比+11.6%、以下同じ）、「生鮮果物」（+10.6%）、「家庭用耐久財」（+10.5%）などが上昇し、

「寝具類」（▲11.8%）、「乳卵類」（▲3.9%）などが下落した。

消費者物価指数の推移

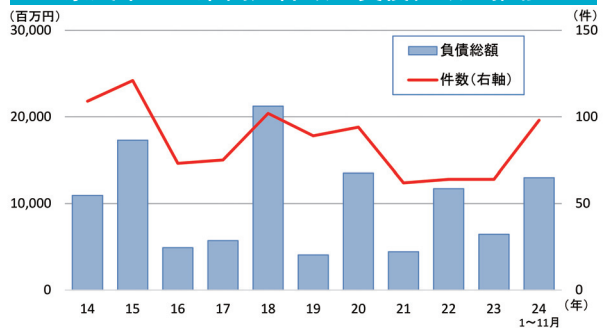


資料出所：総務省統計局「消費者物価指数」より当研究所作成

## 8 倒産

2024年（1～11月）の奈良県の倒産件数は合計98件、負債総額は12,969百万円と現時点で前年を大きく上回るペースとなっている。近畿圏でも倒産件数が26か月連続で前年同月を上回るなど、資材・原材料費の高騰に加え、エネルギー価格や人件費など多方面からのコスト上昇に対して、価格転嫁が思うように進まず、中小企業の収益性回復の足かせとなっている。

奈良県の企業倒産件数・負債総額の推移



資料出所：帝国データバンク奈良支店「奈良県企業倒産集計」より当研究所作成

## 9 工場立地

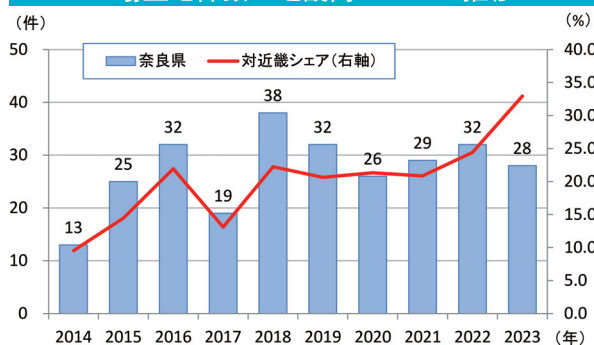
2023年の奈良県の工場立地件数は28件で前年（32件）から減少、面積は308千㎡と前年（147

千㎡)から増加した。対近畿シェアでは立地件数、面積ともに上昇した。

立地件数のうち、業種別では「プラスチック製品」が4件、「金属製品」が4件、「その他の製造業」が3件と続いている。

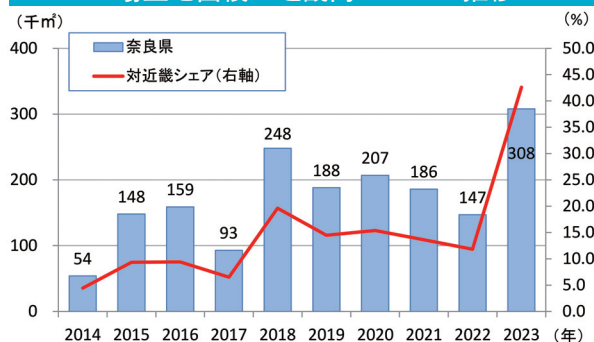
立地件数については、全国で10位、近畿で2位となっており、大阪、京都に近く、中京圏への移動も容易であるという良好なアクセスとそれらの都市に比べて廉価な地価によって、今後も一定の引き合いは続くことが見込まれる。

## 工場立地件数・近畿内シェアの推移



資料出所：経済産業省「工場立地動向調査」より当研究所作成

## 工場立地面積・近畿内シェアの推移



資料出所：経済産業省「工場立地動向調査」より当研究所作成

## 10 観光

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2023年の奈良県の延べ宿泊者数は約265万人泊で前年比27.9%の増加となったが、コロナ前の2019年比では2.8%の減少であった。2023年は、近畿に

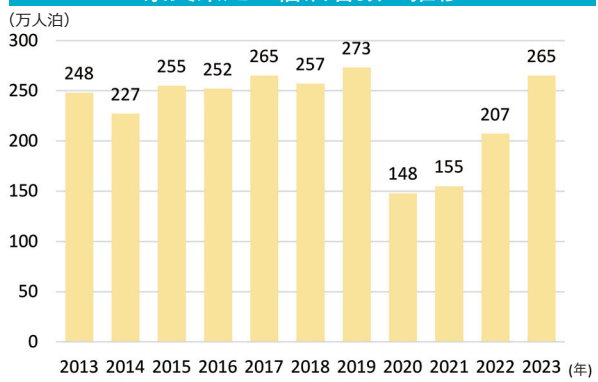
おいて京都府、大阪府、兵庫県の宿泊者数がコロナ前比プラスとなったが、滋賀県と和歌山県は奈良県同様マイナスで、地域差が見られた。

2024年は、物価高に伴う節約志向やポストコロナにおけるペントアップ（繰越）需要の一巡に伴い日本人の観光マインドが低下する一方、外国人観光客は2022年10月の入国制限解除以降、順調に増加している。もっとも外国人観光客の回復のペースは全国に比べて遅れている。

近年、県内では奈良市内を中心に宿泊施設の開業が相次いでおり、それらの施設が存在感を増すことで、施設間の競争は激化している。また、施設数の増加は、人材獲得競争に拍車をかけており、一部の施設では人手不足により稼働率を抑えざるを得ない状況となっている。

そのようなことから、コロナ前から県内で営業する奈良市及び周辺部の主要ホテル8社の宿泊人数と稼働率は、一進一退の動きとなっている。

## 奈良県延べ宿泊者数の推移

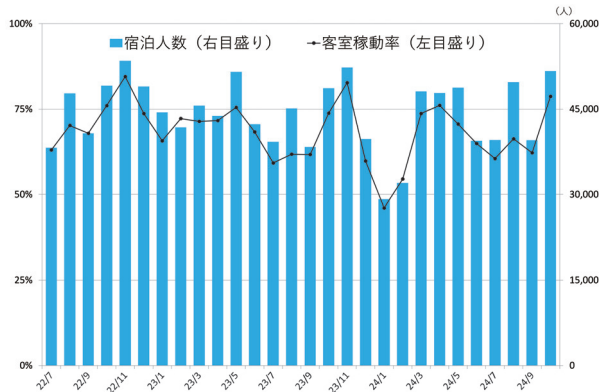


資料出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

円安などを背景に外国人観光客の観光消費が好調との声も多いが、日帰り客の多い奈良県において、その影響はまだ一部に留まっているようだ。

奈良県の外国人延べ宿泊者数の国籍は、コロナ前（2019年）は中国が約6割を占めていたが、2023年は欧米が約3割と最も多くなった。2024

奈良市及び周辺部の主要ホテル8社の客室稼働率・宿泊人数



(注) 客室稼働率(平均)と宿泊人数(合計)  
資料出所: 奈良市ホテル協議会提供資料より当研究所作成

年に入ると再び中国が増加し、1~8月の累計では33.0%と最も多く、次いで欧米27.3%、中国を除く東アジア17.6%となった。奈良県の国籍別の比率を全国と比較すると、中国と欧米が高く、中国を除く東アジアと東南アジアが低くなっている。奈良県ではコロナ前は中国の団体旅行を多く受け入れる施設があったが、現在団体旅行は減少し、個人旅行にシフトしている。

奈良県内での宿泊を増やし観光消費額を増加させるためには、国内外の観光客の県内周遊を増加させることが重要となる。2024年9月には「飛鳥・藤原の宮都」が世界遺産への国内推薦候補に選定された。この地域に世界的な知名度を有する文化遺産が存在することは、奈良市から中南和への周遊観光の促進につながることから、今後、世界遺産に正式登録されれば、県内の観光消費額の増加にも寄与することが期待される。

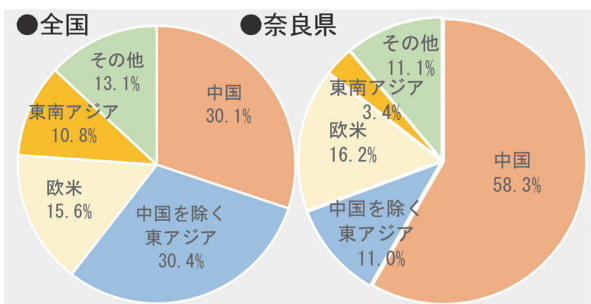
当研究所が四半期ごとに実施している「地元企業動向調査」では、経営上の問題点としてホテル・旅館から「人員不足」「諸経費の増加」「設備の老朽化」といった声が多くあがっている。

競争が激化する中、賃上げや施設の魅力を高める設備投資などに限られた収益を効率的に振り分け

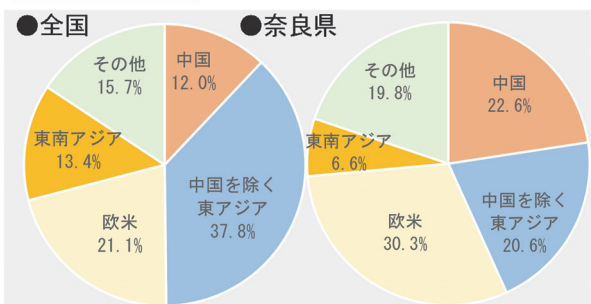
るため、経営者は難しいかじ取りを迫られている。

外国人延べ宿泊者数の国籍(出身地)比率

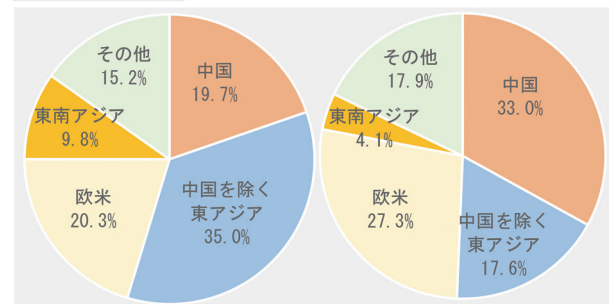
2019年1~12月



2023年1~12月



2024年1~8月



(注1) 「中国を除く東アジア: 韓国、香港、台湾」、「欧米: アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、スペイン」、「東南アジア: シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン」、「その他: インド、オーストラリア、その他」として算出。

(注2) 割合については四捨五入して表記したため合計が100にならないことがある。

資料出所: 観光庁「宿泊旅行統計調査」より当研究所作成



第 II 部

県内業界団体に聞く

2025 年奈良県経済の見通し

当研究所は、2024 年末に県内の業界団体の皆さまを対象とする「県内経済の見通しに関するアンケート」を実施した。本アンケートでは、各業界の 2024 年の業況と 2025 年の見通しに加え、物価高や人手不足が深刻化するなか、各業界の重要課題、関西経済における注目点・展望を尋ねた。

回答いただいた皆さま

- 奈良県酒造組合
- 奈良県靴下工業協同組合
- 奈良県木材協同組合連合会
- 奈良県プラスチック成型協同組合
- 一般社団法人奈良県建設業協会
- 奈良県貨物運送事業協同組合
- 奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合

以上 7 団体（日本標準産業分類順）

アンケート結果から、2024 年は物価高などによる影響の厳しさがうかがえたが、2025 年の業況はやや上向き見通し。

|      | 2024年業況 | 2025年見通し |
|------|---------|----------|
| 好 況  | 0 団体    | 1 団体     |
| やや好況 | 1 団体    | 1 団体     |
| 不 変  | 3 団体    | 4 団体     |
| やや不況 | 2 団体    | 1 団体     |
| 不 況  | 1 団体    | 0 団体     |

以下に各団体の回答について取りまとめているので、企業経営に携わる皆さまの一助として活用いただければ幸いです。

アンケートにご協力を賜りました業界団体の皆さまに本誌面をもって厚く御礼申し上げますとともに、本年も益々のご発展をお祈り申し上げます。

（藤岡奨太）

奈良県酒造組合

大和高田市幸町 2-33

1. 2024 年の貴業界の業況は？（前年比）  
好況 やや好況 **不変** やや不況 不況
2. 2025 年の貴業界の見通しは？（同）  
好況 **やや好況** 不変 やや不況 不況

<理由>

2024 年の業況を振り返ると、業務用の市場がやや好転し、インバウンドや輸出も増加し、「やや好況」といえる状況に近づいた。

2025 年については、輸出が好調に推移し、インバウンドもさらに増え、万博の影響等で訪問客も増える等、増収増益となる見通し。

3. 業界の重要課題は？

原材料である米価格の高騰により、経営状況は厳しく、原価の上昇分を販売価格に転嫁できるかがポイントとなっている。

人材不足は将来的には致命的な課題となる。

資金面で余裕のある事業者は少なく、金利の上昇も気がかりである。

4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・万博の開催をうまく活用できるか。
- ・インバウンド需要の永続的な獲得が可能かどうか。
- ・アメリカや中国に向けた輸出が今後どの程度見込めるか。

### 奈良県靴下工業協同組合

大和高田市日之出西本町 6-23 センイ会館 2 階

#### 1. 2024年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 **不変** やや不況 不況

#### 2. 2025年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 **不変** やや不況 不況

#### <理由>

2024年の業況を振り返ると、2023年初頭はドル円レートが130円程度であったが、現状は150円程度と、円安の進行が製造コストを大幅に引き上げており、非常に不安定な一年であった。

2025年については、国内での新政権発足に加え、アメリカにおいても政権が変わるため見通しは不透明である。

#### 3. 業界の重要課題は？

原材料価格の高騰や物価高が続くため、実用衣料としての靴下の売れ行きは苦戦が予想される。

一方、国産靴下の需要は旺盛であり、素材・機能等の開発を更に進め、輸入商品との差別化を一層はかるべきである。

#### 4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・大阪・関西万博へ来場するインバウンド客に対して、奈良という靴下産地のアピールを図り、世界に発信したい。

### 奈良県木材協同組合連合会

桜井市栗殿 354

#### 1. 2024年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 不変 **やや不況** 不況

#### 2. 2025年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 **不変** やや不況 不況

#### <理由>

2024年の業況を振り返ると、円安、長引く物価高騰による住宅価格の高騰で、持ち家の着工が大幅に落ち込み、これに伴う木材需要の減退が著しく、木材の出荷量は前年を下回る状況が続いている。

2025年については、政府の総合経済対策による物価高への対応や住宅・非住宅建築への支援等、業界の需要回復に期待したい。

#### 3. 業界の重要課題は？

木材需要回復のため、脱炭素社会の実現に貢献する建築物への木材利用を積極的にアピールするとともに、住宅・非住宅分野への木材利用拡大のための取り組みを継続していきたい。

人手不足や老朽化した機械・設備の更新等への対応に加え、安定的な木材供給体制の確立のため、効率的なサプライチェーンの整備やストック機能の強化も課題である。

#### 4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・公共建築物等への木材利用の状況
- ・SDGsへの対応
- ・都市部における木造・木質化建築の動向
- ・円安、物価高への対応
- ・大阪・関西万博の開催

## 奈良県プラスチック成型協同組合

葛城市東室 165-6

1. 2024年の貴業界の業況は？（前年比）  
好況 やや好況 不変 **やや不況** 不況
2. 2025年の貴業界の見通しは？（同）  
好況 やや好況 **不変** やや不況 不況

### <理由>

2024年の業況を振り返ると、円安が定着し原材料費などの高騰、人件費の上昇によりコスト全体が上昇する一方、価格転嫁もスムーズには進まなかった。

2025年については、日本のインフレ率上昇に伴う金利引き上げによって過度な円安が抑えられ、経営環境の改善が見込める。

### 3. 業界の重要課題は？

現状の原材料費の高騰、政府方針で今後も人件費の上昇が見込まれるなか、利益を生み出すための高付加価値の製品づくりを目指すための研鑽が常に必要となる。

また、製造工程におけるムダを排除するための点検や、働き手がいらないことを前提とした効率化を進めるためのDX投資などを行う必要がある。

従業員の入れ替わりが多いことは、最大のムダであるので、きめ細やかな人事対応や研修が必要。

### 4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・アメリカ新大統領の経済政策
- ・大阪・関西万博後の、民間投資の見通し  
(民間投資が、万博投資を補えるかどうか)

## 一般社団法人奈良県建設業協会

奈良市高天町 5-1

1. 2024年の貴業界の業況は？（前年比）  
好況 やや好況 **不変** やや不況 不況
2. 2025年の貴業界の見通しは？（同）  
好況 やや好況 **不変** やや不況 不況

### <理由>

2024年の業況を振り返ると、4月から実施された「建設業における時間外労働の上限規制」はこれまでの働き方を見直す結果となり、企業経営にも影響を与えている。

2025年についても、人手不足に伴う労務単価の上昇や資機材価格の高騰が続く見通し。

### 3. 業界の重要課題は？

人手不足、特に若年入職者の確保は困難であり、実業系教育機関だけでなく事務系学科の卒業生や外国人技能者の採用育成にも積極的に取り組んでいる。他にも他業界と同様の働き方が可能となるよう土日一斉閉所運動にも取り組んでいきたい。

原材料価格高騰の現状を行政にも伝え、設計労務単価及び積算に確実に反映されるよう働きかけていきたい。

### 4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・原材料価格高騰への対応
- ・大阪・関西万博の開催  
観光需要の回復などの押し上げもあり、経済成長を見込む。

### 奈良県貨物運送事業協同組合

天理市西長柄町 186-1

#### 1. 2024年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 不変 やや不況 **不況**

#### 2. 2025年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 不変 **やや不況** 不況

#### <理由>

2024年の業況を振り返ると、業界に景気回復の恩恵はなく、「燃料価格の高止まり」「運賃交渉のハードルの高さ」「働き方改革関連法の施行」「賃上げによる利益圧縮」が事業者にとって4重苦となり、経営環境は厳しさを増した。

2025年については、運賃交渉の進展はある程度期待できるものの厳しい状況は変わらず、トランプ氏の大統領就任で今後の外部環境には不透明な部分も多い。

#### 3. 業界の重要課題は？

- ・ドライバーの確保
- ・運賃交渉の更なる進展
- ・後継者の確保

#### 4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・大阪・関西万博開催による経済効果
- ・リニア中央新幹線の路線と駅の決定
- ・人口減少対策

### 奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合

奈良市三条大宮町 1-12 奈良県生衛会館内

#### 1. 2024年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 **やや好況** 不変 やや不況 不況

#### 2. 2025年の貴業界の見通しは？（同）

**好況** やや好況 不変 やや不況 不況

#### <理由>

2024年の業況を振り返ると、外国人観光客は増加が続いているが、物価高による節約志向もあり、日本人の旅行マインドは悪化した。

2025年は、4月に大阪・関西万博が開幕し、その盛り上がりとともに業界の業況も着実に上向いていくものとする。

#### 3. 業界の重要課題は？

- ①万博関連需要の取り込みによる増収増益
- ②外国人雇用の拡充と賃上げによる人手確保
- ③生産性向上への取り組みの継続（DX、AIなど）

#### 4. 関西経済における注目点・展望は？

（注目点）

大阪・関西万博の来場者による周辺地域への経済効果

（展望）

現時点では不透明な部分が多いものの、万博により経済活動が活性化することによる効果は大きいと考える。